

県北総合開発地域

土地分類基本調査

平 戸

5 万 分 の 1

国 土 調 査

長 崎 県

1 9 7 4

序 文

わが国は、近年、その国民総生産において世界の五指に数えられるまでに躍進する等飛躍的な経済発展をとげるにいたりました。

人と物との移動は激しく、伝統的な地域社会の構造は急激に変化しつつあります。この経済発展に伴い、いわゆる過密や過疎の地域現象、公害や交通問題等大きな社会問題が提起される状況にあります。

本県は、その恵まれた環境を保全しつつその特性を生かし、均衡ある県勢発展を目指して全県民が豊かで快適な生活を享受し得るよう、都市機能の充実、各産業の適正配置と発展をめざして諸政策を進めているところであります。

特に今回調査を実施する県北地域は本県でも大きな産炭地域であったが、エネルギーの流体化に伴い、人口も約16万人に激減した地域であり、経済基盤の確立をはかり大きく浮揚をはかるための諸政策が是非必要な地帯であります。

本調査はこのような諸政策を進めるに必要な諸調査のうち最も基礎的な「地形」「表層地質」「土壌」を主体とする土地条件を科学的総合的に調査することを目的として、国土調査法に基づく開発地域土地分類調査として、国土庁の国土調査費補助金を得て実施するものであります。

昭和48年度は「肥前小浜」「長崎」「大村」の3図幅を調査いたしましたが、49年度は「佐世保」「佐世保南部」「平戸」「早岐」（長崎県佐賀県協同）「唐津」（佐賀県長崎県協同）の5地域を調査し、今後も逐次整備して行く計画であります。

この調査の成果が広く関係者に活用されることを希望するものであります。この調査の実施にあたりご指導、ご助言を賜った国土庁土地局国土調査課の方々をはじめ、調査に直接たずさわっていただきました調査者の方々、資料徴収調査等積極的にご協力をいただいた市町村並びに関係機関の方々に対し心から謝意を表する次第であります。

昭和50年3月

長崎県理事（土地担当）
小 田 浩 爾

ま え が き

1. 本調査は長崎県開発地域土地分類基本調査作業規程に基づき、長崎県企画理事付企画主幹(土地対策担当)・農林部(総合農林試験場)・長崎大学教育学部の諸機関により実施したもので、調査の事業主体は長崎県である。
2. 本調査の成果は、国土調査法施行令第2条 1項 4号の2の規定による土地分類基本調査図および土地分類基本調査簿である。
3. 調査基図は、測量法第27条第2項の規定により建設大臣が刊行した5万分の1地形図を使用した。
4. 調査の実施・成果作成の関係機関及び関係担当者は次のとおりである。

指 導	国土庁土地局 国土調査課	
総 括	長崎県企画理事付企画主幹(土地対策担当)	松 本 重 寿
開発関連調査	副主幹	坂 井 幸 夫
(開発規制)	〃	大 海 康次郎
	主 事	菅 生 剛

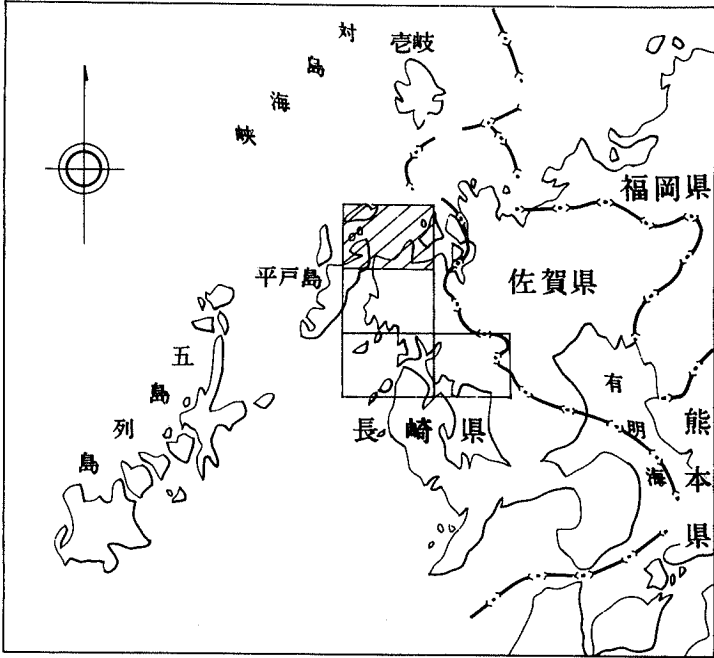
地 形 調 査	長崎大学教育学部 教 授	石 井 泰 義
開発関連調査		
(傾斜区分, 水系・谷密度)		

表層地質調査	長崎大学教育学部 教 授	鎌 田 泰 彦
開発関連調査		
(防 災)		

土 壤 調 査	長崎県総合農林試験場 科 長	小 野 末 太
	技 師	松 尾 俊 彦

協 力 機 関 長崎県関係各課および関係地方機関ならびに図幅内関係市町村

位置図



目 次

序 文

まえがき

総 論

I. 位置および行政区画	1
1. 位 置	
2. 行政区画	
II. 地域の特性	2
1. 自然条件	
2. 社会経済条件	
III. 主要産業の概要	6
IV. 開発の現状と方向	8

各 論

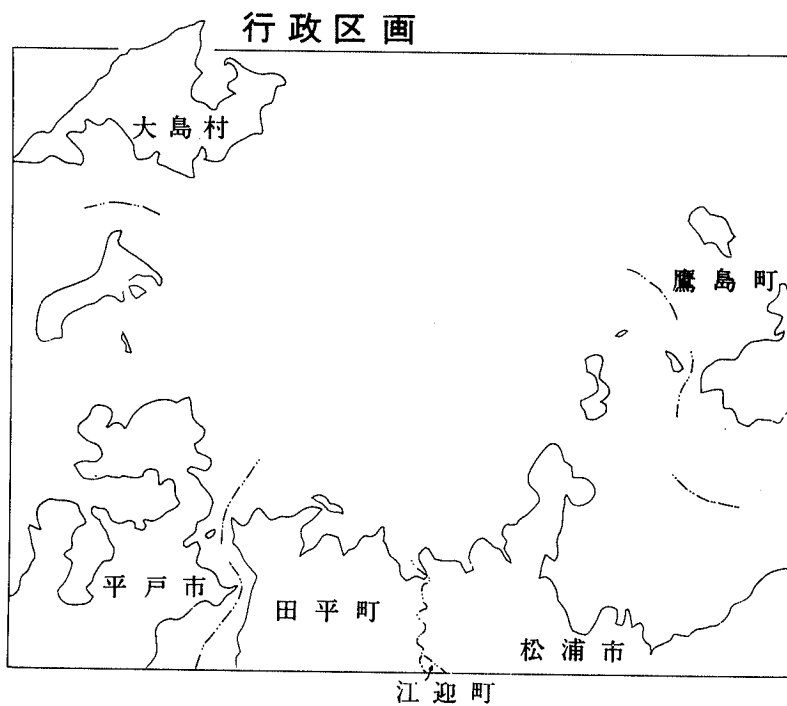
I. 地形分類図	9
II. 表層地質図	14
III. 土 壌 図	20
IV. 傾斜区分図	23
V. 水系谷密度図	24
VI. 防 災 図	25
VII. 開発規制図	26

總論

I 位置および行政区画

1. 位置：「平戸」図葉は長崎県の北部に位置し、東経 $129^{\circ}30'$ ～ $129^{\circ}45'$ 、北緯 $33^{\circ}20'$ ～ $33^{\circ}30'$ の範囲にあり、図葉内の陸地面積は 108.70 km^2 である。
2. 行政区画：本図葉の行政区画は平戸市・松浦市・北松浦郡大島村・田平町・鷹島町、および江迎町の2市3町1村からなっている。

図葉内の市町村別面積は第1表のとおりであるが、江迎町は図葉内に含まれる面積が狭小であるので以下の記述ではふれない。



第1表 函葉内の市町村別面積

区 分 市町村名	函 葉 内 面 積		市町村面積 B (km ²)	A / B (%)
	実 数 A (km ²)	構 成 (%)		
平 戸 市	3 2.5 4	2 9.9	1 7 1.1 6	1 9.0
松 浦 市	3 1.9 1	2 9.4	9 4.7 0	3 3.7
北松浦郡大島村	1 5.3 2	1 4.1	1 5.3 2	1 0 0.0
田平町	2 2.2 7	2 0.5	3 4.9 7	6 3.7
鷹島町	6.3 4	5.8	1 7.1 4	3 7.0
江迎町	0.3 2	0.3	3 1.9 8	0.1
計	1 0 8.7 0	1 0 0.0	3 6 5.2 7	2 9.8

資料：建設省国土地理院調べ（48. 10. 1現在） 但し、函葉内面積については、
県企画主幹調べ。

Ⅱ 地 域 の 特 性

1. 自然条件

ア. 気象条件

この地域は、九州型気候区のうち西海型気候区に属し、年平均気温 16 °C ~ 17 °C
1月の平均気温 6 °C 以上で、冬は温かく夏は比較的涼しいといった海洋性の気候に
恵まれている。

資料：九州の気候（福岡管区气象台）

第2表 月間平均最高気温

1 °C

観測所	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
平 戸	10. 5	10. 5	12. 4	18. 2	21. 3	23. 7	29. 1	29. 8	25. 1	21. 0	15. 2	9. 1	18. 8
大 島	10. 8	10. 8	12. 7	18. 0	20. 7	23. 3	29. 5	30. 5	24. 8	21. 7	15. 4	9. 6	19. 0
福 島	11. 7	11. 6	14. 2	19. 5	22. 8	25. 7	31. 4	32. 0	26. 1	22. 4	15. 9	9. 6	20. 2
佐 々	11. 4	12. 0	14. 0	20. 0	22. 8	26. 0	31. 2	32. 1	26. 6	22. 3	16. 4	9. 9	20. 4

注 昭和48年1月～12月

第3表 月間平均最低気温

1°C

観測所\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
平戸	6.0	5.6	7.3	12.5	15.7	18.9	24.0	25.1	20.4	16.0	9.8	4.4	13.8
大島	5.8	5.1	7.6	12.4	15.5	18.9	22.6	24.8	20.0	15.6	8.6	3.0	13.3
福島	4.9	4.2	6.1	11.4	14.1	17.7	23.6	24.5	20.1	14.4	7.5	2.8	12.6
佐々	3.9	3.3	3.9	10.2	13.6	17.3	23.4	23.4	18.0	12.6	6.8	1.9	11.5

注 昭和48年1月～12月

第4表 月間降水量

1mm

観測所\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総量
平戸	120	93	12	294	199	204	186	57	280	138	46	64	1,693
大島	75	67	22	214	114	218	85	32	178	53	34	31	1,123
福島	86	89	36	283	142	180	244	12	228	24	41	44	1,409
佐々	105	82	37	283	221	198	211	29	343	70	37	54	1,673

注 昭和48年1月～12月 (資料) 長崎県気象月報(長崎海洋気象台)

第5表 観測所の位置

観測所名	所在地	東 経	北 緯	海拔m	摘 要
平戸	平戸市岩ノ上町平戸測候所	129°33'1	33°22'0	58	図葉内南西側
大島	北松浦郡大島村大島小学校	129°33'0	33°28'7	70	図葉内北西側
福島	北松浦郡福島町福島小学校	129°49'3	33°21'9	10	図葉外東側
佐々	北松浦郡佐々町佐々中学校	129°39'3	33°14'2	20	図葉外南側

1 土地利用の現況

関係市町村の平均耕地率は20.5%で、県平均耕地率17.6%に比し高いが、これはこの地域が比較的緩やかな傾斜が多く丘の頂上周辺まで耕地が及んでいるためである。林業については平均森林率が50.8%で、自然景観としての風致的機能が高く、林産物の生産高は低い。

このため、人工造林の増大、林道など生産手段の整備をはじめ、地域の特性を生かしたレクリエーション、保養の場としての整備が図られている。工業用地については、石炭産業の凋落にかわり、伊万里臨海工業団地をはじめ松浦臨海工業団地及び江迎湾工業団地等の整備が進められつつある。

第6表 土地利用の現況

(単位 ha %)

区分 市町村名	総土地 面積(A)	耕 地 面 積 (B)				耕地率 (B)/(A)	森林面積 (C)	森林率 (C)/(A)
		田	畑	樹園地	計			
平戸市	17,116	1,722	961	227	2,910	17.0	9,547	55.8
松浦市	9,470	1,323	595	293	2,211	23.3	4,445	46.9
大島村	1,532	238	214	15	467	30.5	553	36.1
田平町	3,497	425	439	72	936	26.8	1,499	42.9
鷹島町	1,714	141	215	68	424	24.7	714	41.7
江迎町	3,198	335	145	48	528	16.5	1,784	55.8
計	36,527	4,184	2,569	723	7,476	20.5	18,542	50.8
比率	100.0	11.5	7.0	2.0	20.5	—	50.8	—

資料：長崎県統計年鑑（49年）、長崎県の林業（49年）

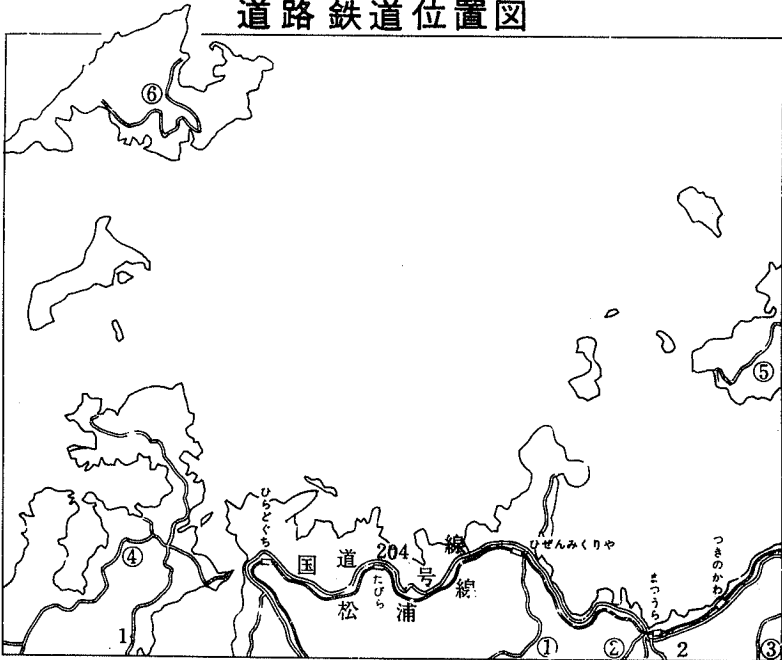
2. 社会経済条件

ア. 交 通

本図葉内は海洋区域がほとんどであるが、離島を除く本土部においては、海岸沿いに鉄道と併行して国道204号線が走っており、これを主軸として主要地方道及び一般県道に分岐している。

更に平戸地区については52年中完成をめざし「平戸大橋」の建設が進められている。

道路 鉄道位置図



1. 道 路

路線名	起 点	終 点	主 要 な 経 過 地
国 道 204号線	唐津市	佐世保市	伊万里市・松浦市・田平町 江迎町・佐々町
主要地方道	1. 平戸田平線	2. 佐世保日野松浦線	
一般県道	① 江迎星鹿港線	② 松浦江迎線	③ 上志佐今福停車場線

④ 中津良春日平戸線 ⑤ 鷹島線 ⑥ 大根坂的山線

2. 鉄 道

路線名	起 点	終 点	主要な経過地
松浦線	有 田	佐世保	伊万里・松浦・平戸口

4. 人 口

図葉内関係市町村の人口は、昭和45年83,355人であり、人口密度は1km²当り平均228.3人と県平均383.4人に比し低い。

人口推移をみると昭和35年から45年までの10年間に約3%の減を示し、更に近年北松炭田のあいつぐ閉山により過疎化が激しい。

第7表 関係市町村の人口推移

市町村名	年次	35年 (人)	40年 (人)	45年 (人)	45/35 (%)	45/40 (%)	人口密度(45年) 1km ² あたり(人)
平 戸 市		40,879	36,602	32,865	80.4	89.5	192.0
松 浦 市		44,057	32,859	25,801	58.6	78.5	272.5
大 島 村		5,033	4,118	3,277	65.1	79.6	213.9
田 平 町		10,462	9,795	9,024	86.3	92.1	258.2
鷹 島 町		5,672	5,195	4,501	79.4	86.6	262.6
江 迎 町		16,774	12,889	7,887	47.0	61.2	247.2
計		122,877	101,458	83,355	67.8	82.2	228.3

資料：国勢調査

Ⅲ 主要産業の概要

図葉内関係市町村の就業人口は昭和45年36,859人で、産業別就業人口の構成をみると、第一次産業48.9%、第二次産業14.9%、第三次産業36.2%となっており、農業就業者の占める割合が非常に高い。

第8表 産業別就業人口の構成(45年)

(単位 人%)

産業別 市町村名	総数	第一次産業				第二次産業				第三次 産業
		計	農業	林業 狩猟業	漁業	計	鉱業	建設業	製造業	
平戸市	15,081	8,441	7,061	12	1,368	1,551	7	717	827	5,089
松浦市	10,835	4,556	4,072	6	478	2,183	30	840	1,313	4,096
大島村	1,378	931	794	—	137	67	2	39	26	380
田平町	4,066	2,028	1,880	3	145	491	13	237	241	1,547
鷹島町	1,837	1,121	746	—	375	225	1	73	151	491
江迎町	3,662	945	932	6	7	977	23	270	684	1,740
計	36,859	18,022	15,485	27	2,510	5,494	76	2,176	3,242	13,343
比率	(100.0)	(48.9)	(42.0)	(0.1)	(6.8)	(14.9)	(0.2)	(5.9)	(8.8)	(36.2)
県全体を 占める 割合	5.3	9.0	10.0	2.3	5.8	3.5	0.6	4.3	3.4	4.0

資料：国勢調査

第9表 主要産業の状況

区分 市町村名	農業			漁業		製造業(47)			商業(47)	
	農家数 (45)	うち専業 (45)	農業粗 生産額 (47)	経営 体数 (47)	総漁 獲高 (48)	事業所	従業員	製造品 出荷額	商店数	年間 販売額
平戸市	戸 3,600	戸 647	百万円 2,523	体 967	百万円 2,829	所 133	人 674	百万円 807	店 523	百万円 4,877
松浦市	2,070	426	1,799	277	395	135	1,835	3,051	417	3,689
大島村	336	109	294	106	205	4	31	9	61	187
田平町	1,014	248	853	96	149	9	49	157	134	3,111
鷹島町	417	133	279	224	676	8	12	26	119	301
江迎町	485	69	384	—	—	23	1,005	3,225	216	2,411
計	7,922	1,632	6,132	1,670	4,254	312	3,606	7,275	1,470	14,576
県全体を 占める 割合	8.4	8.7	8.1	9.0	10.9	5.7	4.0	1.6	5.5	1.9

資料：長崎県勢要覧(49年版)

Ⅳ 開発の現状と方向

石炭産業にかわる産業開発がこの地域に課された課題であるが、漸く基幹交通網の整備が図られつつあり、北九州―長崎間の結節点としての地理的条件や広大な海洋空間、快適な生活環境などの活用に新しい開発の時代を迎えつつある。

唐津・武雄・嬉野・平戸・九十九島などの広域にわたる西海・玄海大リゾート地帯形成の中核としてまた、伊万里・松浦臨海工業団地の開発、更に国見山系を中心とした農業振興構想や平戸・宇久・小値賀等を含めた水産基地の整備等地域の特性に応じた総合的な開発が図られつつある。

また、昭和52年中に平戸大橋が完成のあかつきには平戸の持てる地形的条件を最大限に生かした海洋資源の開発や大規模レクリエーションの整備等急速な開発が期待される。

各 論

I 地形分類図

1. 地形の概要

本図幅には北松浦半島の北部縁辺部と平戸島の北端部および玄界灘の離島である的山大島・度島・青島・黒島および鷹島などの島々が含まれる。地形的には第三紀層上の溶岩台地が広範囲を占め、北松浦半島の北西部に第三紀層からなる丘陵地を伴っている。本図幅では起伏量200~250mを示す中起伏山地や起伏量200m以下の小起伏山地のいずれも山頂部は平坦な溶岩台地をなしているので、ここでは前者を高位又は中位溶岩台地とし、後者を低位溶岩台地として取扱うこととした。高位溶岩台地は図幅西南隅に佐世保図幅の石盛山高位溶岩台地の延長部がわずかに指摘され、中位溶岩台地は北松浦半島本土では田北台地のうち吹上山中位台地御厨台地のうち石森山中位溶岩台地がこれに該当し、平戸島の台地では川内峠中位溶岩台地・白岳中位溶岩台地、平戸島を除く離島の台地では的山大島中位溶岩台地がこれに該当し、山頂部が波状に侵食されつつあることを特徴としている。これ以外の溶岩台地は低位溶岩台地が広範囲で、平坦面の保存が良好である。また西南隅の丘陵地では地すべり地形の発達が著しい。

上に述べた地形の性状を細説するため次の地形区を設定した。

I. 山地(台地) - 山麓

I a 平戸台地

I a' 同上山麓地

I a-1 川内峠中位溶岩台地

I a-2 白岳中位溶岩台地

I a-3 薄香低位溶岩台地

I a-4 小富士山小起伏山地

I b 田平台地

I b-1 吹上山中位溶岩台地

I b-2 萩田低位溶岩台地

I b-3 里低位溶岩台地

I b-4 小崎低位溶岩台地

I c 御厨台地

I c - 1 石森山中位溶岩台地

I c - 2 大岳低位溶岩台地

I c - 3 中野低位溶岩台地

I c - 4 星鹿低位溶岩台地

I d 石盛山台地

I d - 1 石盛山高位溶岩台地

I e 離島台地

I e - 1 的山大島中位溶岩台地

I e - 2 的山大島低位溶岩台地

I e - 3 度島低位溶岩台地

I e - 4 青島低位溶岩台地

I e - 5 黒島低位溶岩台地

I e - 6 鷹島低位溶岩台地

II 丘陵地

II a 岳崎丘陵地

II b 西山丘陵地

II c 不老山丘陵地

II d 調川丘陵地

III 低地

III a 神曾根川谷底平野

III b 釜田川谷底平野

III c 坂瀬川谷底平野

III d 牟田海岸平野

III e 田代川谷底平野

III f 志佐川谷底平野

III g 調川谷底平野

2. 地形細説

2-1 山地・山麓（I）

2-1-1 平戸台地（Ia）

川内峠（267m）・鞍掛山（191m）は玄武岩からなる傾斜 $3^{\circ}\sim 15^{\circ}$ の波状を示す中位溶岩台地（Ia-1）で、縁辺急傾斜面の西側は東側に比べて緩傾斜で、崖下の山麓地では西側の明ノ川内や大野に地すべりが発生している。平戸島北端の白岳（250m）は浸食がすすみ平坦面が僅かに残存するメーサ状の中位溶岩台地（Ia-2）で縁辺急傾斜面はさらに急崖をなす海食崖に移行している。川内峠中位溶岩台地（Ia-1）と白岳中位溶岩台地（Ia-2）との間の薄香湾沿岸には傾斜 $3^{\circ}\sim 8^{\circ}$ の低平な薄香低位溶岩台地（Ia-3）があり、末端に急崖を伴っている。平戸港沿岸の台地もこれに含まれる。古江湾西岸の小富士山（217m）はピユート状に浸食され、台地の形態が失われた小起伏山地（Ia-4）で、山麓には標高20m内外の岩石段丘を伴っている。

2-1-2 田平台地（Ib）

佐世保図幅にみられる吹上山（216.1m）の延長部で、坂瀬川西岸にみられる吹上山中位溶岩台地（Ib-1）は、山頂に小規模なメーサ状の台地面を残存し、縁辺に 15° 内外の斜面を有し、北は小崎低位溶岩台地（Ib-4）に移行し、西は河谷をへだてて里低位溶岩台地（Ib-3）に隣接する。小崎低位溶岩台地は傾斜 $3^{\circ}\sim 8^{\circ}$ の緩傾斜面を示し末端は海食崖で終っている。里低位溶岩台地は釜田川によつて開析され、台地周縁に岩石段丘を伴い、中央部に里田原の盆地状低地を有する。釜田川西岸の萩田低位溶岩台地（Ib-2）は釜田川支流によつて2分されるが、いずれも $3^{\circ}\sim 8^{\circ}$ の緩傾斜面で西部は急崖をもつて平戸瀬戸に臨んでいる。

2-1-3 御厨台地（Ic）

佐世保図幅にある石森山の北の延長部に当る石森山中位溶岩台地（Ic-1）は悪太郎川と田代川の間にあつて、東側は急崖をなし、西側は $15^{\circ}\sim 20^{\circ}$ の斜面をなして、中野低位溶岩台地（Ic-3）に移行し、西側は田代川をへだてて、大岳低位溶岩台地（Ic-2）に隣接している。大岳低位溶岩台地は浅い谷によつて3分され傾斜は $8^{\circ}\sim 15^{\circ}$ 乃至 $15^{\circ}\sim 20^{\circ}$ を示し、その北部は $3^{\circ}\sim 8^{\circ}$ の中野低位溶岩台地に移行している。中野低位

溶岩台地の北にある星鹿の半島部は低位溶岩台地（I c-4）で、下田付近に $8^{\circ}\sim 20^{\circ}$ の傾斜面がみられるが、半島の大半は $3^{\circ}\sim 8^{\circ}$ の低平な台地面を示している。東岸・川原辺田には地すべり地がある。

2-1-4 石盛山台地

佐世保図幅の石盛山（425 m）の延長部の高位溶岩台地（I d-1）が本図幅の西南隅にわずかに現われ、調川丘陵地（II d）に隣接する。

2-1-5 離島台地（I e）

的山大島の胴体部は起伏量100～210を示す中位溶岩台地（I e-1）で、台地縁辺部は $15^{\circ}\sim 20^{\circ}$ の急傾斜地で魚見岳（184 m）の東南には地すべりが発生している。この島の半島部をなしている部分は低位溶岩台地（I e-2）をなし、島の周囲には海食崖の発達が著しい。中位溶岩台地（I e-1）と低位溶岩台地（I e-2）の接触部には小河谷がみられ、集落の大半は中位溶岩台地とその縁辺斜面に立地している。

度島は低位溶岩台地（I e-3）をなし、西岸と北岸に海食崖の発達が著しく、西南岸では新・旧2列の海食崖があり、その間には段丘面を介在している。東岸は比較的緩傾斜で丸島の飯盛山はビュート状に浸食された台地の1部である。

青島は低位溶岩台地（I e-4）で、台地は3つのブロックに分かれ、南端の台地は海食崖にとりまかれ、中央の台地との間にある低地は、海食崖の形成後に発達したものと推定される。集落はここに集中している。

黒島も低位溶岩台地（I e-5）で、海食崖にとりまかれているが、東部に台地を刻む河谷がみられ、そこに集落を有する。

鷹島は低位溶岩台地（I e-6）をなし、本図幅にはその西南部が示されている。牧ノ岳（117 m）付近は傾斜 $3^{\circ}\sim 8^{\circ}$ の平坦面をなし、南端の番屋山（86 m）はビュート化された平坦面の残丘である。

2-2 丘陵地（II）

星鹿半島の東北端には、起伏量120 mの城山（126 m）が孤立丘陵（II a）をなしている。城山の上部は玄武岩、下部は凝灰角礫岩から成り、その境界を頭部とする小地すべり地形がみられる。

悪太郎川の東岸には起伏量100～200 mの西山丘陵地（II b）があり、末端部には岩

石段丘を伴っている。

志佐川と調川との間には同じ起伏量を示す不老山丘陵(Ⅱc)があり、山腹には地すべり地形、末端部には段丘地形がみられる。

調川東岸の調川丘陵(Ⅱd)は石盛山高位溶岩台地の北に展開する起伏量180m内外の第三記層の丘陵地で、地すべりの多発地帯をなしている。

2-3 低地(Ⅲ)

本図幅には平戸島では、神曾根川谷底平野(Ⅲa)の下流部がみられ、西部には岩石段丘の発達が良好で河口は狭隘な峡谷状をなしている。

田平台地(Ⅰb)を緩流する釜田川は、台地上に盆地状の谷底平野(Ⅲb)を形成し、里田原の盆地では、まわりに岩石段丘を伴い、盆地の出口には遷移点がある。盆地内の沖積地は、浸食された台地が海進・海退をくりかえした結果形成されたものと推定される。この沖積地では先史遺跡が発掘されている。

吹上山中位溶岩台地(Ⅱb-1)と大岳低位溶岩台地(Ⅰc-2)の間にある坂瀬川谷底平野(Ⅲc)は、左岸は急崖が多く、左岸支流の合流点には遷移点がある。

星鹿低位溶岩台地(Ⅰc-4)の南部には、血田と牟田の海岸平野(Ⅲd)がある。血田は、北から砂丘が発達し、その後背湿地の低地であり、牟田はその出口に遷移点があるので、沖積期に隆起したことが推定される低地である。

田代川谷底平野(Ⅲe)は、石森山中位溶岩台地(Ⅰc-1)・大岳低位溶岩台地(Ⅰc-2)の間、下流では中野低位溶岩台地を浸食して流下している。

志佐川谷底平野(Ⅲf)は、この図幅では最下流部がみられ、海岸にデルタと人工造成地がある。

調川川谷底平野(Ⅲg)も、この図幅では下流部がみられ、地すべりの多い丘陵地の支流をもち、河口には人工造成地を有する。

(長崎大学教育学部 石井 泰 義)

Ⅱ 表 層 地 質 図

本図幅は、長崎県の本土地域の最北西端に位置し、平戸瀬戸によりわずかに隔てられた平戸島北端部と、その北にならぶ度島・大島と鷹島（西半部）などの島々を含む。地質的には、いわゆる佐世保炭田（北松炭田ともいう）を構成する含炭第三紀層分布地域の北端に当たるが、大部分は玄武岩により被覆されている。

第三紀層は柚木層より上の佐世保層群上部と、その上に重なる野島層群に属する堆積岩よりなる。また平戸島では更に上位の平戸層が分布するが、岩質は一般に凝灰質であり固結度は佐世保・野島層群の地層と比べて低い。

火山性岩石の大部分は玄武岩であり、南に隣接する「佐世保」図幅内の広い玄武岩溶岩台地の原面が北西に次第に高度を減じ、本図幅内に入って海水準に達している。平戸島北部や大島では、玄武岩に被覆される火山性岩石として、輝石安山岩や安山岩質凝灰角礫岩などが発達する。

1. 未固結堆積物

1-1 礫・砂（海浜堆層）gs

本図幅内には岩石海岸が多いため、海浜堆積層の分布はきわめて少ない。玄武岩や安山岩の円礫よりなる礫浜は、大島の曲り鼻・戸田浦、度島の本村、平戸島の中野付近に見られる。砂浜は松浦市志佐・調川海岸つものかわによく発達していたが、現在では埋立てられて原形がすでに失われている。

1-2 礫・粘土（崖錐堆積層）gcl

山麓部に第三紀層や凝灰角礫岩が分布する地域において、中腹以上に玄武岩が重なっている所では、地すべりによつて崖錐堆積層が形成され、地すべり崩積土ともよばれている。主として玄武岩起源の茶褐色粘土よりなり、多量の新鮮な玄武岩の礫石を含む。玄部岩溶岩流の基底部に八ノ久保砂礫層が発達する所では、この崩積土中に古期岩類の堅硬な円礫を含む。

1-3 礫・砂・泥（沖積低地堆積層）gsm

玄武岩分布地域を流れる河川の中流には、各所に山間盆地があり、主として成層した、

転石混りの砂質粘土により埋積され、水田として耕作が行われている。また平戸の神曾根川では、平戸層を開析した広い谷が安山岩でせきとめられ、沖積低地が形成されている。

2 半固結堆積物

2-1 砂礫・粘土（段丘堆積層）t

志佐川下流の右岸に海拔 5～10 m の平坦面をもつ低位段丘が小範囲に発達する。

2-2 礫・砂（八ノ久保砂礫層）Hgs

平戸瀬戸の両岸と、松浦市内に分布する玄武岩の基底部に発達するもので、第三紀層を不整合に被覆する。本砂礫層は主としてチャート、古期岩類の硬質砂岩・礫岩などの円礫と、諸種の火成岩礫を含む。平戸瀬戸付近では、古期岩類に乏しく、玄武岩・安山岩の礫に富んだ厚さ約 5 m の砂礫層が分布し、南竜崎砂礫層と呼ばれている。

2-3 砂岩・泥岩・凝灰岩（平戸層）Hd

平戸島北部の平戸瀬戸に面した大野海岸、古江湾周辺部、神曾根川流域などに分布する固結度の低い地層である。一般に凝灰質であり、岩相の側方変化が著しいため、層序区分がきわめて困難である。凝灰岩は流紋岩質～安山岩質である。亜炭を含む田助含亜炭層も本図幅ではこれに含めた。

3. 固結堆積物

3-1 砂岩（深月層）Nf

細～粗粒の砂岩を主とする厚層であるが、泥岩の薄層をはさんで互層をなす部分も多い。主な分布は、平戸瀬戸をはさんだ両岸と、松浦市御厨・星鹿に見られる。鷹島の属島の黒島や沖ノ島の基盤をなす第三紀層も本層に属するものと思われる。深月層の基底部には、20～50 m の厚さをもつ凝灰岩、凝灰角礫岩（小島崎凝灰角礫岩層）があるが、地質図では火山性岩石として識別した。

3-2 砂岩・泥岩・凝灰岩互層（大屋層）No

火山砕屑岩が優勢な地層であり、全体的に砂岩・泥岩・砂質泥岩・凝灰岩が互層をなす。本層下部には淡水性貝化石を豊富に含み、野島化石帯として古くから知られている。

3-3 泥岩・砂岩（加勢層）Sk

佐世保層群の最上部に含まれている地層であるが、下位の福井層とは不整合関係にある。本層下部は特徴のある黒灰色の砂質泥岩層（前加勢黒色頁岩）であり、有孔虫化石を多産する。上部は厚い砂岩となり、海生～汽水生の貝化石を含む。松浦市志佐・調川付近に分布する。

3-4 砂岩・泥岩・石炭（福井、世知原、柚木層）Sf, Ss, Sy

本図幅内の地表に露出する加勢層を除いた佐世保層群は、上から福井、世知原層と、柚木層の一部であり、主として松浦市志佐町と調川町および鷹島に分布する。全般的に砂岩の優勢な砂岩、泥岩互層よりなり、しばしば石炭層や凝灰岩を挟む。

厚層をなす砂岩は分級のよい中粒砂岩よりなる場合が多く、露出面では黄白色を呈し、更に褐鉄鉱の析出によつて同心円的な模様があらわれるため「迷彩砂岩」と呼ばれている。柚木層の最上部には松浦三尺層、また世知原層の最上部には砂盤層という、それぞれかつて稼行された石炭層がある。また福井層の最上部には本ヶ浦凝灰岩とよばれる凝灰岩・凝灰角礫岩が挟在し、地質図内では火山性岩石として識別した。

4. 火山性岩石

4-1 佐世保層群中の凝灰角礫岩層

（小島崎・本ヶ浦・歌ヶ浦凝灰角礫岩）ib

前述のように、深月層最下部の小島崎凝灰角礫岩層と、福井層の最上部の本ヶ浦凝灰岩層および最下部の歌ヶ浦凝灰角礫岩層は、それぞれ野島層群と佐世保層群上部層における鍵層をなす火山砕屑岩として重要である。従つて、福井層中の凝灰岩の層厚はわずか5m前後であるが、地質図中の福井層中に識別した。小島崎凝灰角礫岩は20～50mの層厚をもち、松浦市御厨南部の国道204号線の切り通しにきわめて良好な露出がある。

4-2 石英安山岩口 Da

平戸市中野の西に熔岩円頂丘をなす垣ノ岳をつくる。斑晶として石英・角閃石・黒雲母・シソ輝石・斜長石を含む。

4-3 安山岩質岩石 An

主として複輝石安山岩よりなり、産状は溶岩状を呈するものが多い。分布の主な地域は大島南部と平戸島北部の占江湾沿岸である。大島の安山岩は隠微晶質～ガラス質の石基を

もち、変質している場合が多い。また神浦港の港口両岸では著しく熱水変質を受け、//焼け//を生じている。平戸島の神曾根水源池付近の安山岩は、かなり顕晶質の石基をもち、斑晶として輝石の外に黒雲母、角閃石を含んでいるため、やや酸性のヒン岩に近い。

4-4 安山岩質凝灰角礫岩 Tb

安山岩質溶岩の下位に存在する火山砕屑岩で、大きさの一定しない安山岩礫を含む。大島東部の白崎鼻や平戸島古江西海岸などで典型的な露出が見られる。大島の山湾の奥には本岩の基底部に成層した凝灰岩層が発達する。

4-5 玄武岩 Ba

長崎県北松浦郡一帯に広く分布する松浦玄武岩の一部をなすもので、数枚の溶岩流として重なり合い、他の岩体を不整合に被覆している。岩型として斑晶質と無斑晶質とがあり色は黒色や灰色のものがある。度島の丸島（飯盛山）、平戸島の白岳、星窟の城山などはビュート状をなす玄武岩体である。

4-6 粗粒玄武岩 Do

鷹島村黒島に分布し、^{まいし}真石と称せられて石材として加工される。斑晶にカンラン石を多量に含み、石基は粗粒である。

4-7 岩滓（スコリア）Sc

玄武岩の溶岩流の基底部に発達する火山砕屑岩で、火山弾状の玄武岩礫をもつことが多い。一般に酸化して赤色を呈する。

5. 応用地質

5-1 石炭

本図幅内の松浦市東部の志佐町、調川町の炭鉱において採炭されたことがある。主要移行炭層は、世知原層上限の砂盤層と、福井層上部の福井一枚層である。

5-2 採石

建設用粗骨材として、田平町内の玄武岩と平戸市中下野の安山岩が採石されている。田平では3ヶ所で採石が行われ、玄武岩の平均比重は2.801、平均吸水量は0.871%である。また平戸の3ヶ所の安山岩の平均比重は2.551、平均吸水量は2.836%である。

鷹島村黒島の粗粒玄武岩は^{まいし}真石とよばれ、古くから石材として切り出され、鷹島などで加

工される外、島外にも原石を送り出している。

5-3 地すべり

本図幅内には、いわゆる「北松型地すべり」の多発地域を含み、とくに東部と西部において、第三紀層の上に玄武岩が重なる境界付近では、至る所で地すべり現象が認められる。地すべり防止の指定を受けている区域は25ヶ所に達し、それぞれ防止対策工事が行われている。個所ごとに地すべりの型式や規模は異なるが、松浦市調川の加勢層の泥岩部や、平戸市の平戸層のような泥質岩の優勢な地層が分布する地域では慢性的な地すべりを起している。

(長崎大学教育学部 鎌田 泰彦)

主要参考文献

- 地質調査所(1950) : 20万分の1地質図幅「唐津」
- 古川俊太郎(1970) : 佐世保北部地域地質図
(1:25,000)地質調査所
- 岩橋 徹(1961) : 北松地域およびその周辺に見られる八ノ久保砂礫層(新称)について - 佐世保炭田の研究(その2)九州大学理学部研報(地質)5, 2, 80-97.
- 鎌田 泰彦(1973) : 平戸層に関する2・3の新事実と問題点 長崎県地学会誌19,
8-14.
- 長浜 春夫(1954) : 佐世保炭田におけるいわゆる佐世保層群上部について 地調月報
5, 8, 413-440.
- 沢田 秀穂・沢村孝之助・今井功・長浜春夫(1955) : 5万分の1地質図幅「平戸」同説
明書 1-33. 地質調査所
- 上治寅次郎(1938) : 北松浦炭田地質説明書(付地質図及断面図)1-50、北松南部鉱
業会
- 山崎 達雄・古川俊太郎・坪島 務(1971) : 佐世保炭田北東部における佐々川断層
松下久道教授記念論文集 419-431.

地層および岩石一覽（平戸・佐世保図幅）

地質時代		地質系統	表層地質分類			
第四紀	(現世) 沖積世	埋立地 海浜堆積物 崖錐堆積物 沖積低地堆積層	c g s g c l g s m	土石 礫・砂 礫・粘土 礫・砂・泥	未固結 堆積物	
	洪積世	段丘堆積層	t	砂礫・粘土	半固結 堆積物	
新第三紀	鮮新世	松浦玄武岩類	B a S c	玄武岩 岩 滓 (スコリア)	火山性 岩石	
		豊肥火山岩類	A n T b	安山岩質岩石 安山岩質凝灰角礫岩		
		八ノ久保砂礫層	H g s	礫・砂	半固結 堆積物	
		平戸層	H d	砂岩・泥岩・凝灰岩		
	中新世	野島層群	深月層	N f	砂岩	固結 堆積物
			大屋層	N o	砂岩泥岩凝灰岩互層	
		佐世保層群	加勢層	S k	泥岩・砂岩	
			福井層	S f	砂岩・泥岩・石炭	
			世知原層	S s		
			袖木層	S y		
中里層	S n					
相浦層	上部	S a 1				
	中部	S a 2				
下部	S a 3					
古第三紀	漸新世	杵島層群	波多津泥岩層	K h 1	泥岩砂岩薄互層	積物
			波多津砂岩層	K h 2	砂岩・砂質泥岩	
			行合野砂岩層	K y	砂岩	
			佐里砂岩層	K s	砂岩凝灰質泥岩互層	
			(杵島層)	K k	泥岩	

Ⅲ 土 壤 図

1. 山地の土壤

1-1 土壤の概要

長崎県本土部分の最北端で、平戸・松浦両市と大島鷹島等の良嶼より成る。図幅の大部分は玄武岩を母材とするが、安山岩第三紀堆積岩もみられる。黄褐色系の乾性褐色森林土が広く分布し、又暗赤色土壤（乾性）が大きな比率で出現する。地形は概しておだやかで、農地としてよく拓かれている。山地では人工造林が進み、乾性土壤が多い割には好生長をみせている。

1-2 細 説

1-2-1 乾性褐色森林土壤（黄褐色）

図幅の全域にわたり幅ひろく認められる。

玄武岩母材のものは植栽されたヒノキ等が意外に揃った良い伸びをみせていることが多い。尾根や風衝地にはマツが残されているが相変らず虫害で痛められている。本来の林相であるスダジイを主とした照葉樹林の姿が乏しく、これ以上の開発はかなりの危険が伴うと思われる。又、リアス式海岸の急崖等露岩に類するものが小面積ながらかなりの延長をもつてこの統群に加わっている。

1-2-2 褐色森林土壤（黄褐色）

前項の土壤統群に伴なつて集水地形を呈する位置に点在する。スギ植栽地としてよく利用されており、生産力は高い。玄武岩母材のものは物理性（透水性）にやや難があるものの、化学組成、保水力が優れているものが多い第三紀層を母材とする林地では深層まで透水性に恵まれ大方の植栽木は良好な生長を示している。

1-2-3 暗赤色土壤（乾性）

玄武岩の風化物を母材とする赤色味の強い土壤を暗赤色土壤とし、そのうち乾性の強いものをこの統群とした。下層の土色は 2.5YR～7.5YR にわたる。

ヒノキ、スギの植栽が進み、風衝の少ない地域では成林してその成績も予想されるほど悪くはない。この中には海岸線での殆ど土層のない岩石地に近いものも含まれている。

1-2-4 暗赤色土壤

図幅の全域に小面積ずつ分布する。殆どがスギ林で、中には極めて高い生産力を有するものもあるが、多くは乾性の土壌に生立するものと大きな生長差は示さない。

1 - 3 山地の土壌と土地利用

ゆるやかな地形に乾性の土壌が大きな比重を占め人工林がキメ細かに広がっている。海風の激しい場所にも植付けられ、今後問題を残すものといえる。

天然記念物の黒小島原始林にはアコウ・ホルトノキ・サンゴジユ・スダジイ・タブノキ等50余種に達する喬木が存在することだが、人為が加わった現在一般の山地では広葉樹林は極めて少なくなっており、又、従来やせた土地に多く生立したマツが枯損してしまい、将来に不安が残っている。これからの開発には慎重さが大いに求められよう。

(長崎県総合農林試験場 松尾俊彦)

2. 丘陵 - 台地 - 低地の土壌

2 - 1. 土壌の概要

本地域は第三紀層を基盤とし、その上部は玄武岩より被覆されているが一部安山岩により覆われている。台地丘陵地が多く、低地は少ない。台地丘陵地の土壌は玄武岩および安山岩の風化物を母材とする黄色土壌、黄色土壌(湿性)、赤色土壌が多く、一部に暗赤色土壌、細粒グライ土壌、グライ土壌が分布している。

土性はC~CLである。低地には褐色低地土壌、粗粒褐色低地土壌、粗粒灰色低地土壌、細粒グライ土壌が分布し、一部に粗粒グライ土壌、低位泥炭土壌が分布している。

2 - 2 土壌細説

2 - 2 - 1 赤色土壌

下層土の土色が5YR⁴/₄より赤い土壌である。玄武岩・安山岩を母材とする土壌で表土の土性はCL~LiC、下層土はLiC~HCである。台地および丘陵斜面に分布している。主として野菜飼料作物、ミカン等が栽培されている。

2 - 2 - 2 黄色土壌

下層土の土色が5YRより黄色味の強い土壌である。表土の土性はCL~LiC下層土はCL~HCである。玄武岩および安山岩の風化物を母材とする土壌で、下層に「オニジャク」盤を有するもの

もある。

台地および丘陵斜面に分布し、野菜・飼料作物・麦・ミカン・甘藷等が栽培されている。

2-2-3 黄色土壌（湿性）

黄色土壌で、鉄・マンガンの斑紋結核を有する土壌である。

表土の土性はCL～LiC、下層土はCL～HCである。玄武岩・安山岩の風化物を母材とする土壌で、台地丘陵斜面に分布している。主として水田として利用されている。

2-2-4 暗赤色土壌

赤色土に似ているが、それよりも明度・彩度ともに低く、下層土の土色は5YR 4/4又はそれ以下である。表土の土性はCL～LiC、下層土はLiC～HCである。玄武岩安山岩の風化物を母体とする土壌で、台地および丘陵斜面に分布し、野菜・甘藷・麦・飼料作物等が栽培されている。

2-2-5 褐色低地土壌

下層土の土色が黄褐色の低地土壌で鉄・マンガンの斑紋結核を有する。作土下の土層はグライ斑にとみ、土性は作土下層土ともにHCである。田平町に分布し、水田として利用されている。

2-2-6 粗粒褐色低地土壌

下層土の土色が黄褐色の低地土壌で、地表下18cm以下円礫層を有する。鉄・マンガンの斑紋結核を含み土性は表土、下層土ともにLiC～HCである。作土はグライ斑にとみ、平戸市に分布し、水田として利用されている。

2-2-7 粗粒灰色低地土壌

下層土の土色が灰色～灰褐色の低地土壌で下層に円礫層を有する。鉄・マンガンの斑紋結核を含み土性は表層、下層土ともにLiC、作土はグライ斑にとむ。平戸市に分布し、水田として利用されている。

2-2-8 細粒グライ土壌

作土直下よりグライ層か地表下60cm以内以下にグライ層を有する低地土壌および台地土壌である。土性は表層、下層土ともにHCで鉄の斑紋を有する。小河川の流域および台地上に分布し、水田として利用されている。

2-2-9 グライ土壌

地表下40 cm 内外以下グライ層を有する低地土壌である。表土の土性はLiC、下層土の平均土性はLで鉄の斑紋を含む。松浦市に分布し、水田として利用されている。

2-2-10 粗粒グライ土壌

全層グライ土壌で地表下35 cm以下礫層を有する。

表土の土性はLiC、下層土はCL~LiCで鉄の斑紋を含む。平戸市、鷹島町の一部に分布し、水田として利用されている。

2-2-11 低位泥炭土壌

作土から泥炭層で、作土直下よりグライ層となつている。土性は表層、下層土ともにLiC~SiCで鉄の斑紋にとむ。田平町に分布し、水田として利用されている。

(長崎県総合農林試験場 小野末太)

IV 傾斜区分図

本図幅で急崖であるS7を示すところは、先づ離島ならびに本土の海食崖があげられる。的山大島の西北岸では約6 kmの海食崖が連続し、大根坂湾岸、的山湾岸を除く東岸では断続的に分布する(Ia)。度島(Ie-3)の西北岸には新旧2列の海食崖がS7の数値を示し、青島南部の溶岩台地(IIe-4)はS7で囲まれ、青島中央部の低地形成前に海食を受けたものと推定される。黒島(Ie-5)もS7の海食崖で囲まれ、鷹島(Ie-6)・平戸島(Ia)の海岸部でもS7が断続的である。北松浦半島では田平台地(Ib)の西岸および星鹿台地(Ic-4)の東岸で直線状にS7が発達し、後者では地すべりを伴っている。

S5~S6の急傾斜面は前述の海食崖につづく海岸部のほか、川内峠や白岳の中位溶岩台地(Ia-1、Ia-2)・石盛山高位溶岩台地(Id-1)の縁辺急傾斜面や飯盛山(Ie-3)・小富士山(Ia-4)・城山(Ic-4)などビュート状の残丘にみられる。

S4の分布は的山大島および石森山中位溶岩台地(Ie-1、Ic-1)の縁辺急傾斜面に局地的に指摘される。

S3は吹上山・大岳薄香台地(Ib-1、Ic-2、Ia-3)・不老山丘陵地(IIc)・調川丘陵地(II d)に広く分布し、川内峠溶岩台地(Ia-1)の山頂部や山麓地もS

3の数値を示している。

S 2は荻田・里・中野・星鹿の低位溶岩台地 (I b- 2)、I b- 3、I c- 3、I c- 4)に広く分布、的山大島の中位低位溶岩台地 (I e- 1、I e- 2)の台地面や度島台地 (I e- 3)で集团的にみられ、川内峠溶岩台地 (I a- 1)では台地面の1部や急崖下の地すべり鞍部に分布している。

S 1は神曾根川、釜田川、坂瀬川、牟田、田代川、志佐川、調川川の各河谷 (III a ~ III g)にみられる。

(長崎大学教育学部 石井 奏 義)

V 水系 , 谷 密 度 図

本図幅中の水系は、北松浦半島を溶岩台地を刻んで北に流れて、玄海灘に流入する河川と平戸島その他の離島の河川とに大別される。

前者には釜田川・坂瀬川・田代川・悪太郎川・志佐川・調川川の諸河川があり、一般に台地上を緩流し、著しい峡谷を欠き、台地の末端部で遷移点がみられる。釜田川は田平台地を緩かに流れ、浅い巾広い谷をつくり、里田原では、段丘を伴う盆地状の低地を形成、河口部に遷移点を有する。悪太郎川以西の河川は河口部が狭隘で、デルタの発達を欠いているが、以東の志佐川、調川川では河口が開け、デルタ・砂丘・人工造成地を伴っている。その他の半島部の河川は短小で溪流に属する。離島の河川に属する神曾根川は本図幅では最も広い谷底平野をもつが、河口部は峡谷状になっている。その他の離島河川は短小で、溪流に属するが、的山大島中位溶岩台地の溪流では上流部に溜池をもっているのが特徴的である。

北松浦半島における谷密度は、星鹿台地を除く各溶岩台地では局部的に30台が示されるが、20~30が広範囲を占め、末端部と星鹿台地で、10~20の数値が示される。平戸島では、川内峠の西南部で、30台をみるが、台地縁辺部や小富士山、白岳西南部で20~30を示すほかは、薄香台地で10~20の低い数値となる。的山大島では、中位台地の中央部で20~30、縁辺部で10~20を示すほかは、低位台地で10~20となっている。鷹島では台地面で20~30、縁辺部で10~20の数値が分布する。度島・青島・黒島などの属島では10以下の低い数値が示されている。

(長崎大学教育学部 石井 奏 義)

Ⅵ 防 災 図

(1) 地すべり防止区域

地 域 名		所 在 地		地域面 積(ha)	家屋数 (戸)	告 示 年 月 日	地すべり地 の概況 発生年度	所管		
区 域 名	関 河 川 係 名	郡 市	町 村							
田 助		平 戸 市	田 助 町	5.28	48	35.10.1	昭和34	建設		
市 場		松 浦 市	御 厨 町	7.16	108	34.11.5	28			
木 場		田 代 川	〃	〃	11.40	7	〃	28	〃	
立 岩		調 川 川	〃	調 川 町	29.32	69	35.9.13	27・29	〃	
白 岳		〃	〃	〃	80.20	64	35.3.4	26	〃	
青 島		〃	〃	星 鹿 町	5.33	82	37.11.14	28	〃	
字 留 戸		平 尾 川	〃	調 川 町	18.51	11	35.9.13		〃	
平尾第一		〃	〃	〃	9.14	19	〃	28	〃	
川原辺田		〃	〃	星 鹿 町	5.37	68	〃	30・31	〃	
平尾第二		〃	〃	調 川 町	19.53	3	〃	28	〃	
星 鹿		〃	〃	星 鹿 町	12.61	1	37.11.14	28	〃	
上平尾		平 尾 川	〃	調 川 町	37.37	14	37.12.6	36	〃	
志 佐 里		〃	〃	志 佐 町	17.54	8	43.9.17	38	〃	
的 山		坂 瀬 川	北松浦郡	大 島 村	11.30	35	35.9.13	28・34	〃	
鎮守の元			〃	田 平 町	5.81	1	36.5.17	28	〃	
日 の 浦			〃	〃	〃	6.70	3	〃	28	〃
野 田			〃	〃	〃	6.80	6	〃	28	〃
唐 舟			〃	〃	〃	6.70	3	〃	28	〃
明の川内			皿川支川	平 戸 市	明の川内	42.88	10	37.2.14 47.12.25	28	農林
古 江		〃	〃	古 江	34.60	3	38.8.30	28	〃	
野 字 佐	床 浪 川 大 山 川 雇 尾 水 船 唐 津	北松浦郡	大 島 村	15.20	0	41.5.18	28	〃		
上 棚		〃	鷹 島 村	17.44	0	〃	28	〃		
大 山		平 戸 市	川 内 町	180.95	0	43.3.27	28・34	〃		
雇 尾		松 浦 市	今 福 町	96.00		37.8.4		林野		
船 唐 津		北松浦郡	鷹 島 村	31.50		37.11.19		〃		

資料：県河川砂防課、耕地課、林務課調

(2) 砂防指定地

番号	河川名		所在地	指定関係事項		着工年度	竣工年度
	幹川名	溪流名		告示年月日	面積(ha)		
	平尾川	平尾川	松浦市調川町	29. 3. 29	0.59	28	29
	調川川	立岩川	〃	48. 5. 22	5.90	48	50
	戸石川	戸石川	平戸市戸石川町	47. 3. 29	6.60	47 49	49 51

資料：県河川砂防課調

(3) 急傾斜地崩壊危険区域

番号	指定区域名	所在地	告示年月日	面積(ha)	人家(戸)
①	三原辺田	松浦市	48. 1. 26	69.153	123
②	日ノ浦(1)	田平町	45. 6. 9	4.00	55
③	〃(2)	〃	〃	2.50	27
④	釜田第一	〃	45. 12. 1	8.00	85
	〃第二	〃	〃	2.50	34

資料：県河川砂防課調

Ⅶ 開発規制図

(1) 国立公園

西海国立公園

面積 24,324 ha

指定 昭和30年3月16日

区域 佐世保市・福江市・平戸市外16町

(2) 国定公園

総面積 長崎県域分(2町)
 玄海国定公園 11,137.5 ha 357.9 ha

昭和31年6月1日 国定公園指定
 昭和43年7月22日 北松浦地区追加指定
 (福島町・鷹島町)

(3) 県立公園

公園名	指定年月日	関係市町村	公園面積	利用型式	公園の特色
北松県立自然公園	S 37. 1. 10	8 市町村計	3,514.2 ha	ピクニック	丘陵景観、歴史 景観地域 国見山系高原 シイニ次林 夏緑広葉樹林 お橋観音ほか 窯跡など
		・松浦市	350.0	ハイキング	
		・大島村	474.5	サイクリング	
		・田平町	315.5	宿泊休養	
		・江迎町	317.0		
		佐々町	756.2		
		吉井町	495.0		
		世知原町	802.0		
		小佐々町	4.0		

資料：県立自然公園調査（県自然保護課）

(注) 1. 面積は図上測定である。 2. ・印は本図葉内関係市町村

(4) 保安林

市町村名	総数		水源 かん養林	土砂流出 防備村	土砂崩壊 防備村	防風林	魚つき林	その他
	箇所数	面積						
平戸市	97	100.41	—	8.53	0.81	15.85	74.46	0.76
松浦市	22	141.76	—	114.30	1.92	—	22.54	3.00
大島村	14	14.99	—	—	—	—	14.99	—
田平町	15	24.41	—	—	—	—	23.74	0.67

市町村名	総 数		水 源 かん養林	土砂流出 防 備 林	土砂崩壊 防 備 林	防風林	魚つき林	その他
	箇所数	面 積						
鷹 島 町	13	11.69	—	—	0.97	—	10.72	—
江 迎 町	1	2.608	—	2.608	—	—	—	—
計	162	3193.4	—	1489.1	3.70	15.85	1464.5	4.43

資料：長崎県の林業（林務課）

(5) 鳥獣保護区

名 称	区 域 (ha)	指 定 期 間
県設亀岡公園鳥獣保護区	25	S 42. 3. 31 ~ 62. 3. 30

資料：長崎県鳥獣保護区概要図（昭和49年度）

(6) 都市計画区域

単位：ha

区 域 名	区域内市町村名	範 囲	面 積	市街化 区 域	市 街 化 調 整 区 域
平 戸	・ 平 戸 市	行政区域の一部	1,400	—	1,400
松 浦	・ 松 浦 市	〃 の一部	3,068	—	3,068
江 迎	・ 江 迎 町	行政区域の全域	3,190	—	3,190
	・ 田 平 町	〃 の一部	680	—	680
	鹿 町 町	〃 の一部	1,455	—	1,455
計			5,325	—	5,325

資料：県都市計画課調

(注) ・印は本図葉内関係市町村

1975年3月 印刷発行

県北総合開発地域
土地分類基本調査

平 戸

編集発行 長崎県企画理事付企画主幹
(土地対策担当)

長崎市江戸町2-13

印刷 (株)富士マイクロサービスセンター

熊本市水前寺6丁目46-1